

---

## 日本伸銅協会 ～2021年重大ニュース～

---

2021年12月24日

### ① 伸銅品生産量の回復が続く

1～11月の伸銅品生産量は、71.3万トンであり、前年同期比で+21.8%、2019年同期比で+2.9%とコロナ前の水準以上の回復を示している。暦年の生産量は、77万トンを超える見通しである。2020年秋の自動車から始まった各需要分野の回復は、総じて好調に推移しており、主力製品のうち銅条・黄銅条では、デジタル家電と車載向け半導体、端子・コネクタを中心に好調が続いており、黄銅棒では水栓金具やガス機器、設備機器需要も回復基調が続いている。

### ② 銅建値が過去最高値を更新 亜鉛や錫なども急騰

銅の国際相場は急騰し、国内銅建値は4月に過去最高値（2007年の105万円/トン）を更新し、10月には134万円/トンまで上昇した。また銅合金に使用する亜鉛や錫の国内価格も急騰し、いずれも高水準となった。他材質への代替の動きに関しては注意が必要である。

### ③ RCEPの2022年1月の発効が決定

RCEP（東アジア地域包括的経済連携）は、2022年1月から日本、ブルネイ、カンボジア、ラオス、シンガポール、タイ、ベトナム、豪州、中国、ニュージーランドの10カ国で発効することとなり、2022年2月からは韓国も加わる。中国と韓国とは初めての自由貿易協定であり、伸銅品の輸出入への影響を注視する必要がある。

### ④ 適正取引の推進に向けた自主行動計画を策定

経済産業省の「金属産業取引適正化ガイドライン」に対応し、日本伸銅協会では「適正取引の推進に向けた自主行動計画」を5月に策定した。また8月に同ガイドラインが改訂されたことに伴い、同自主行動計画を9月に改訂した。会員企業における適正取引の推進を、今後も支援していく。

### ⑤ 伸銅品技術講習会を2年ぶりに開催（初のWeb開催）

日本伸銅品問屋組合連合会と共催で例年実施している伸銅品技術講習会は、昨年コロナ禍により中止となったが、2年ぶりに開催された。コロナ前は、東京・大阪・名古屋の3

会場での各1日開催であったが、今回は初のWeb開催のため、10月26日と11月2日の2回開催した。総勢400名以上の参加申込みがあり、両日とも盛況であった。

#### **⑥ 日本銅学会の論文集がJ-STAGEで無料公開**

日本銅学会では、年1回開催している講演大会での特別講演、テーマセッション講演及び一般講演の内容を論文集としてまとめ、学会誌「銅と銅合金」を発刊している。4月より、「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)上への掲載論文の無料公開を開始した。銅に関する貴重な学術論文集であり、広く活用されることを期待している。

#### **⑦ ヘテロナノ超高強度銅合金材の開発(NEDOテーマ)を3年で完了**

平成30年度NEDO戦略的省エネルギー技術革新プログラム「省エネルギー戦略に寄与する“ヘテロナノ”超高強度銅合金材の開発」については、3年目の中間評価において、NEDOに申請した課題に対しては量産試作材で所定の特性がほぼ得られたものの、コロナ禍によりNEDOに提案した市場化スケジュールへの対応が難しいとの判断により、3年目を以って完了した。なお、研究開発、市場化推進は引き続き、個社で対応する予定。

#### **⑧ 「銅及び銅合金の新型コロナウイルス不活化効果」確認される**

銅及び銅合金の「新型コロナウイルス」不活化に対するに評価が行われ、「ウイルス感染価は、10分間で減少率99.997%を示し検出限界値に達した(試験協力：奈良県立医科大学)」と日本銅センターが12月に公表した。病原性大腸菌O-157などに対する超抗菌性能は実証されていたが、今回新たに新型コロナウイルスに対する効果が確認されたことで、銅の特長の一つである「超抗菌作用」が更に認知され、今後銅を利用した製品の付加価値向上に寄与することが期待される。

#### **⑨ コロナ禍で新たな様式による定時総会をはじめ各種イベントを再開**

コロナ禍のもと、ワクチン接種の普及とともに、感染防止に向けた各種ガイドラインが示され、国内外での経済活動が再開しつつある。日本伸銅協会でも3月以降の主要行事については、感染予防に努めつつ「Web開催」又は実開催とWebを組み合わせた「ハイブリッド開催」など、新たな方式を採用することで再開している。

#### **⑩ 組織の見直しを含めた新たな体制で会員サービスの向上へ**

本年5月に閉鎖した関西事務所の業務は、本部へ集約するとともに専任連絡員体制を整えた。また6月には開発企画部を新設するなど、リモート勤務も含めた新たな体制で、更なる会員サービスの向上へ取り組んでいる。